

2013年4月13日

Welcome to the Jungle

熱々！東南アジアの現代美術

Welcome to the Jungle: Contemporary Art in Southeast Asia
from the Collection of Singapore Art Museum

2013年4月13日(土)～6月16日(日)
横浜美術館



2012年現在、シンガポールの国民1人あたりの総所得は、日本の約1.5倍で世界第3位、インドネシアの経済成長率は日本の約3倍。今、東南アジアで沸き立つこの「熱」は、いったいどこからやってくるのでしょうか？

仏教、道教、ヒンドゥー、イスラム、カトリック。宗教一つを例に挙げても、東南アジアを一つの視点でくくことはできません。民族的背景や政治思想の違いなど、常に自分と異なる人や文化を意識する生活。文化の多様性を知りそれを受け容れることが、この地域を理解するには欠かせません。

本展は、シンガポール、マレーシア、インドネシア、タイ、フィリピン、ベトナム、カンボジア、ミャンマーの計8か国の作家による、1999年以降の作品28点を紹介します。長年にわたり海の遊牧民を追ったザイクーニンの映像は、美しい自然を捉える一方で、政治的・経済的な理由で遊牧民たちの生活が制限される様子を示し、明るく照らし出される夜のジャングルを写したフランク・カリヤガンの写真は、監視社会化する現代都市と、隣り合う境界線上の自然の姿を暴き出します。ジャングルさながらの密度と熱気を帯びたこれらの作品は、課題を抱えつつ未来を切り開いていこうとする現在の東南アジアの力強さを感じさせてくれることでしょう。

ロベルト・フェレオ《バンタイの祭壇》(部分) 2007年
合板、木粉と卵殻の混合材、彩色、各約h.125×53×15cm
Roberto Feleo, *Ang Retablo ng Bantaoay* (detail), 2007,
Planked Marine Plywood covered with Sawdust and Eggshell Dust

本展のみどころ

東南アジア諸国の“今”を伝える 現代アートのグループ展、 お見逃しなく！

成長著しいASEAN諸国。経済的、政治的にも“沸騰する”“発熱する”と表現されることもあるこの地域では、目覚ましい都市化と生活や社交構造の急激な変化を背景に、若い作家たちによる鋭いアート作品が次々と生まれています。今回8カ国より、注目を集める作家・作品が集結するまたとない機会となりました。1999年以降に制作された、まさに東南アジア諸国の今が息づく“熱々”な展覧会です。

“ジャングル Jungle”とは…？

“ジャングル”と聞くとすぐに思い浮かぶのは高い湿度と温度、多様な動植物が共生する熱帯雨林。元々はサンスクリット語で「文明化されていない土地」を意味する「ジャンガラ」に由来する言葉ですが、本展でのジャングルはそれだけではありません。多民族、多宗教が同じ地域に隣り合って共生する国家、人間の生き様の“ジャングル”。林立する各国の都市、そこはインフラやITのネットワークが高度に発達した“コンクリート・ジャングル”。そしてそのジャングルから抜け出してきたアート作品の“ジャングル”。「多様な」というひとつことでは表現しきれない、重なり合う“ジャングル”のイメージをぜひ体感してください。

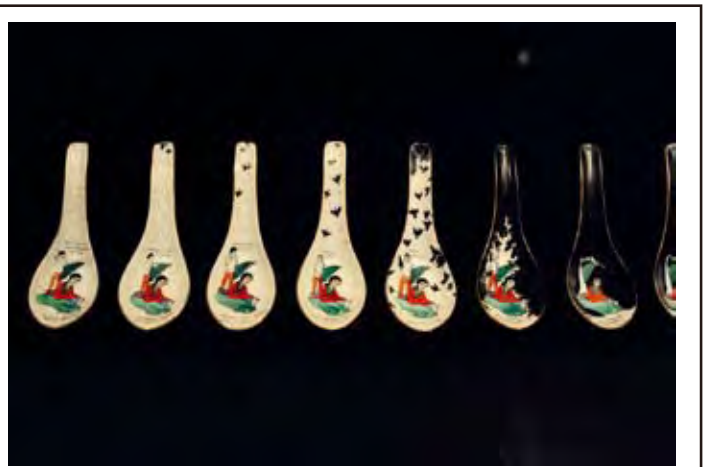
東南アジアの“熱々！”のなかに日本を探す

横浜美術館でこの“ジャングル”に分け入り、熱い作品群と向き合うなかで、どこか懐かしさ、共通する何かが浮かび上がってくるかもしれません。アジアの一員である日本との、長く深いつながりが、作品のどこかに隠れている……東南アジアの今を見つめることは、現代日本の姿を照らし出す機会となるでしょう。



ロベルト・フェレオ《バンタイの祭壇》2007年
合板、木粉と卵殻の混合材、彩色、各約h.125×53×15cm
Roberto Feleo, *Ang Retablo ng Bantaoyay*, 2007,
Planked Marine Plywood covered with Sawdust and Eggshell Dust

16世後半から約300年にわたりスペインの植民地であったフィリピンは、東南アジアで唯一キリスト教を国教とする共和国です。1807年、スペインによる「バジ」(サトウキビ酒)の厳しい規制が引き金となって巻き起こったバジ反乱。この作品は、植民地時代の歴史的動乱を題材にして制作された10体の木彫像からなっています。しかし、なかにはキリスト教の聖ロンギヌスやイフガオ族の神話に登場する炎の頭をもつ戦士など、神や聖人をかたどった像も含まれています。また、祭壇の伝統的な形式に反し、逆三角形のかたちに彫像を配置することで、植民地支配下の権力構造や階級制度に対する作者の疑義が込められています。



チャン・ユンチア《芭蕉の娘》(部分) 2007年、油彩、陶器、各h.13.5×5×5cm
Chang Young Chia, *Maiden of the Ba tree* (detail), 2007, Oil on Ceramic

中国系マレーシア人であるチャン・ユンチアは、自身の民族的アイデンティティを象徴するものとして、陶製のレンゲを素材にしています。いまでは一般に広く普及する陶器も、かつては裕福な人々だけが使うことのできたものでした。35個のレンゲひとつひとつには、行方知れずとなった幼い息子を芭蕉の葉の下で待ち続ける、母親の悲劇が描きだされています。母親は死の間際になり、息子が実は一度もそばを離れることなく、自分を守り続けていたという事実を知ります。息子の存在を見えなくしていたものは、他でもない自分自身であったことを知り、母親は涙を流します。



フランク・カリヤガン《森の監視》2008年、インクジェット・プリント、h.41×61cm
Frank Callaghan, *Guarding the Woods*, 2008, Inkjet Print



ティタルビ《バヤン・バヤン・マハ・ケチル#9(小さきものの影)》(部分) 2010年、半磁、照明、各h.130×40×40cm
Titarubi, *Bayang Bayang Maha Kecil #9 (Shadows of the Smallest kind)* (detail), 2010, Stoneware, Lamp

手のひらを鑑賞者に向ける子どもの胸像は、作家の娘がモデルです。表面には、イスラム教徒の女性たちが子どもを守るために唱える祈りの言葉が刻まれています。ここには子どもたちに対する母親の保護と愛情の気持ちが表されているように見えますが、一方で手のひらを相手に向ける子どものジェスチャーは拒絶の身振りを表すものです。母親たちがただ暗唱する形骸化したイスラム教の経典。その宗教的価値観を何ら疑問なく受け継ぐことに対する拒絶の意思が感じられます。ティタルビはインドネシアを代表する女性アーティストのひとり、本展は日本で初めて彼女の作品を紹介する機会となります。



ホン・セクチェン《温故知新》
2010年、墨、紙、h.138×138cm
Hong Sek Chern, *Constructing Old with New*, 2010, Chinese Ink on Paper



スティーヴ・ティロナ《イメルダ・コレクション#3》
2006年、発色現像方式印画、h.91.5×61cm
Steve Tirona, *Imelda Collection #3*, 2006, Chromogenic Print

ザイ・クーニン《リアウ諸島》2009年、ビデオ(30分) Zai Kuning, *Riau*, 2009, Video (30mins.)



※作品はすべてシンガポール美術館蔵 / All works are Singapore Art Museum Collection

出品作家

◆ シンガポール

ザイ・クーニン
リー・ウェン
ホン・セクチェン
フランシス・ン
シャノン・リー・キャッスルマン
チャールズ・リム
PHUNK

◆ マレーシア

イー・イラン
ナディア・バマダジ
チャン・ユンチア
アフマド・ファド・オスマン
ブアン・タイミン

◆ フィリピン

ロベルト・フェレオ
ボクロン・アナディン
スティーヴ・ティロナ
フランク・カリヤガン

◆ インドネシア

アラフマヤーニ
ティタルビ
ムハマッド・ユスフ

◆ タイ

ナウイン・ラワンチャイクン
アラヤー・ラートチャムルーンスック

◆ ベトナム

チャン・ルーン
ジュン・グエン=ハツシバ

◆ ミャンマー

ニエ・レイ

◆ カンボジア

ヴァンディ・ラッタナ

本展はシンガポール美術館協力の下、横浜美術館と熊本市現代美術館の共同企画により開催されます。

The exhibition is organized and presented by Yokohama Museum of Art and Contemporary Art Museum, Kumamoto, in partnership with Singapore Art Museum.

※イベント情報・詳細については、決定次第、横浜美術館ホームページなどご案内します。

関連イベント

1. 上映&トーク

(1) 講師: カイルディン・ホリ氏 (本展共同企画者、シンガポール美術館シニア・キュレーター) [逐次通訳付き]
上映作品: ヴァンディ・ラッタナ《爆弾でできた池》2009年、シンガポール美術館蔵
日時: 4月14日(日) 14:00~16:00 (13:45開場)
会場: 横浜美術館レクチャーホール (定員240名)

(2) 講師: 宮津大輔氏 (現代美術コレクター)
上映作家: ミン・ウォン、ホー・ツーニエン、アピチャッポン・ウィーラセタクン、ドン・サルバイバ
いずれも宮津大輔氏蔵
※上映作品は変更になる可能性があります。
日時: 5月11日(土) 14:00~16:00 (13:45開場)
会場: 横浜美術館アートギャラリー2 (定員50名)

(1)(2)はいずれも無料、当日13:00より整理券を配布します。

[3、4のお申込み方法]

- (1) 当館ホームページ: 本展関連イベントページの「申込みフォーム」。
(2) 往復はがき: 往信面に、イベント名と開催日、郵便番号、住所、参加者の氏名(ふりがな)、参加者の年齢、電話番号を、返信面に返送先を明記のうえ「〒220-0012 横浜市西区みなとみらい3-4-1横浜美術館ジャングル展 イベント担当」宛にお送りください。

2. 学芸員によるギャラリートーク

日時: 4月26日(金)、5月10日(金)、5月24日(金)、6月14日(金)
いずれも14:00~14:30
※参加無料(当日有効の観覧券が必要です)

3. 夜の美術館でアートクルーズ

閉館後に学芸員の解説つきで展覧会を鑑賞する人気講座です。

日時: ①4月27日(土)、②5月22日(水)
いずれも19:00~20:45

定員: 各回30名
参加費: 3,000円
※要事前申込み、抽選
(①は3月29日、②は4月26日いずれも必着締切)

4. おやこで楽しむジャングル展!

おとなと子どもと一緒に鑑賞するワークショップです。

日時: ①5月5日(日)、②5月6日(月・祝)
いずれも10:30~11:45

対象・定員: 小学校3年生以上のお子さまと保護者の方・各回10組
※参加無料
※要事前申込み、抽選(①、②いずれも4月5日必着締切)

チケット情報

一般	1,100 (1,000) 円
大学・高校生	700 (600) 円
中学生	400 (300) 円

※小学生以下無料

※()内は有料20名様以上の団体料金(要事前予約)
※毎週土曜日は、高校生以下無料(要生徒手帳、学生証)
※障がい者手帳をお持ちの方と同伴の方(1名)は無料
※本展チケットで観覧日当日に限り横浜美術館コレクション展もご覧いただけます。
※チケットは、横浜美術館、セブン-イレブン店内のマルチコピー機「セブンチケット」(セブンコード:021-012)にてお買い求めいただけます。
※リピーター割引: 観覧済みの当館企画展有料チケットをご提示いただくと、団体料金でご覧いただけます。(観覧済み展覧会最終日から1年間、1名様1回限り有効)
※その他割引料金については別途、お問い合わせください

お得な情報

○ 前売限定のペア券、ドリンクセット券 ○

前売券に、お得な一般ドリンクセット券(1,200円)が登場。一般観覧券に加えて、「Café小倉山」のソフトドリンク450円までと交換可能なドリンク引換券が付いてきます。一般ペア券(1,800円)は当日観覧料から400円(2名様)もおトク!もちろんお一人で違う日に2回楽しんでOK! お取り扱いは前売限定(4月12日まで)となります。

○ おとな&子どもの鑑賞優待 ○

中学生以下の子どもと保護者の方が一緒に来館すると、子どもは無料、保護者の方は当日観覧料が半額(550円)になります。小学生以下の子どもには鑑賞のヒントとなるワークシートもあります。

実施日: 5月11日(土)、12日(日)、18日(土)、19日(日)、25日(土)、26日(日)


基本情報

Welcome to the Jungle 熱々! 東南アジアの現代美術

Welcome to the Jungle: Contemporary Art in Southeast Asia from the Collection of Singapore Art Museum

2013年4月13日(土)~6月16日(日)

休館日 木曜日
開館時間 10:00~18:00 (入館は17:30まで)
会場 横浜美術館 (〒220-0012 神奈川県横浜市西区みなとみらい3-4-1)
お問い合わせ TEL: 045-221-0300 FAX: 045-221-0317 <http://www.yaf.or.jp/yma/>

主催: 横浜美術館[公益財団法人 横浜市芸術文化振興財団] 共催: シンガポール美術館 後援: シンガポール政府観光局、横浜市
助成: 芸術文化振興基金 、公益財団法人 花王 芸術・科学財団
協力: 日本航空、みなとみらい線、横浜ケーブルビジョン、FMヨコハマ、首都高速道路株式会社

プレスリリースお問い合わせ

横浜美術館 広報担当(宮野、藤井)

TEL: 045-221-0319 FAX: 045-221-0317 E-mail: pr-yma@yaf.or.jp